

西教寺進徳日曜学校だより

西教寺蔵本通支坊 2004.9.19 呉市中央7-7-13 TEL21-2798 E-mail:chinei63@enjoy.ne.jp

今日したこと

- おはなし
「じゅげむ」
「おかあさんのおねだり」(仏教子ども新聞)
- ゲーム
「まちがいさがし」他

第49回全国児童作品展応募の締め切りは10月17日(日)としたいと思います。どしどしご応募下さい。

◎共感する力ーちょっといい話ー

最近テレビを見ると、毎日のように殺人のニュースばかり流れています。とくに我が子、親、夫、妻などの肉親を殺した事件など、やり場のない気持ちをどうしていいかわからなくなります。

野田正彰さん(比較文化精神医学・関西学院大学教授)の本に『共感する力』というのがあります。それによると、高等動物は他個体への「共感する力」が高いのだそうで、縄張り争いで勝ったオオカミは、頭を下げて去るオオカミを決してさらに攻撃することはないそうです。相手がおびえていることを知っているからだとあります。ああそれなのにそれなのに、人間は。

「この国の多くの中老年層の感情はこわばり、他者との開かれた交流能力を欠いている。大企業の管理職、官僚、学者、ジャーナリスト、いわゆるエリートたちはけっして感情の豊かな人々ではない。共感力や想像力において、あまりにも貧しい人々が多い。そして彼らの子供である青年層は、さらに感情が希薄化し、人と人との交流を情報やせいぜい肉体のやりとりとしか考えられなくなっている。」(同書「こわばった感情」)

話はかわりますが、台風の後、羽の折れたカラスが境内の楠の大木の下にいました。飛ぶことができず、追いかけると地面の上をバタバタと逃げ回って物陰に隠れるのだそうです。境内の掃除をしてくれていた松田さんと中岡さんが知らせてくれました。それをつれあいが聞いてきて「松田さんと中岡さんが保健所に知らせた方がいいのでは」と言っている」と私に報告してくれました。



HP JUST ZOOより転載。
http://www.justsystem.co.jp/momonet/amu_park/zoo/xzootop.htm

保健所に知らせるとどうなるのか知らない(殺されてしまうのと困る)ので、とりあえず様子を見に行ってみよう、その時は仕事で手が離せなかったため、後で見に行くことにしました。

しばらくして見に行くと、カラスはいませんでした。中岡さんによると、飛べないカラスの仲間らしきのが3羽、上の方から見守っていたのだそうですが、1羽が降りてきて寄り添っていっしょにいたのだそうです。しばらく寄り添っていたカラスが、大きな声で「カーッ」と鳴いたその声を合図に、なんと飛べなかったはずのカラスが近くまで飛んだのだそうです。飛べたことで自信をつけたのか、そのカラスは仲間と一緒に遠くへ飛び去った、ということでした。

仲間でしょうか、親子でしょうか。私は、殺伐とした世の中ではりつめていた心が、ほっとして嬉しくなったことでした。それとともに、知らず知らずのうちに心が張りつめていた自分に気づき、驚いたことでした。

私だけではなく、もしかすると、子どものころも緊張してはりつめているかもしれません。「早く早く！何してるの、いい加減にしろなさい！」とせき立てられ、テレビで殺したり死んだりするヒーロー物ばかり見ていると、そうならないはずはありません。子どもの表情がこわばっていないか、また、親も子も、生活の中身(忙しすぎないか、ショッキングな番組ばかり見ていないか、e t c .)や言動を少し見直してみてもいいかがでしょうか？

次回は10月2日(土) 9時～10時です。

その次は10月17日(日) 9時からです。



ほとけの子カルタの後、大波小波をして遊びました。